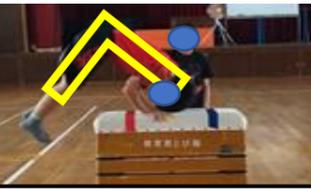
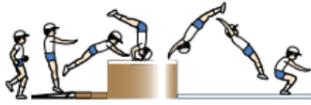


時	1	2	3	4	5	6	7	8
目標	<p>【知識及び技能】回転系の基本的な技の行い方を知っているとともに、自己の能力に適した回転系の技の動きを身に付けたり、その発展技に取り組んだりすることができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】運動に進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り、誰とでも仲良く運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p>							
コア技術	<p>① 跳ねの動作まで膝を伸ばして、腰を「く」の字に折り曲げている。</p> <p>② 三角形(両手と額)を支点に腰が跳び箱の奥のラインよりも出るまで支えている。</p> <p>③ 腰が跳び箱の奥のラインから出てから腰を反っている。※跳ねの方向性は、斜め前方</p>							
めあて	学習の進め方を知り、学習のめあてを持つ。	「く」の字の状態の前転するにはどうしたらいいか考えてやってみよう。	友達の様子を見て気付いたことを伝え、自分の課題を見付けよう。	支持する時間を長くするためにはどうすればいいかを考えながらやってみよう。	美しい「頭はね跳び」のポイントを考えて取り組もう。	自分の課題に合った場を選んで取り組み、友達がうまくなる工夫を伝えよう。	自分の頭跳ね跳びがレベルアップするにはどうすればいいか考えよう。	学習の成果の発表会をして友達の良いところを見付け、伝えよう。
指導内容	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 単元目標の提示 身に付けさせたい力 ・きれいに、正確に、難しい技にもチャレンジしようとする意欲 ・頭はね跳びの技の習得 ・伸膝の頭はね跳び ・安全についての意識の向上</p> <p>3. 頭倒立の動画の紹介 ・インターネット →動画データベース →跳び箱</p> <p>4. 跳び箱運動の復習 ・開脚跳び ・かかえ込み跳び ・台上前転 ・首はね跳び</p> <p>5. 目標設定 ・個人の目標を設定する。</p>  <p>腰を「く」の字に曲げる</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示</p> <p>3. スモールステップ ① 跳び箱の上で「く」字の状態の前転をする。(三角形(両手と額)を支点に) ② 跳び箱の上で「く」字の状態になり、膝が曲がらないようにして落ちる。</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示</p> <p>3. スモールステップ ① 跳び箱の上で「く」字の状態の前転をする。 ② 跳び箱の上で「く」字の状態になり、腰が跳び箱の奥のラインから出てから腰を反る。 ※ 目は手の間を見続け(支点をグラつかせないようにする。髪の毛の生え際付近で支える。)</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示</p> <p>3. スモールステップ ① 跳び箱の上で「く」字の状態になり、腰が跳び箱の奥のラインから出てから腰を反る。 ② 跳び箱の上から安定した頭はね跳びができるようになった児童は助走をつけて頭はね跳びを行う。</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示</p> <p>3. スモールステップ ① 跳び箱の上から頭跳ね跳びをする。 ※ コア技術①②③のどれを意識して取り組むかを確認する。 ② 跳び箱の上から安定した頭はね跳びができるようになった児童は助走をつけて頭はね跳びを行う。</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示</p> <p>3. 自分の課題の確認 ・頭はね跳びのポイントの確認 ・自己のレベルに合わせた練習 ※ それぞれのレベルに合わせた場の設定</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示</p> <p>3. 自分の課題の確認 ・頭はね跳びのポイントの確認 ・自己のレベルに合わせた練習 ※ それぞれのレベルに合わせた場の設定</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操) ・頭はね跳びのポイントの確認</p> <p>2. 本時のめあての提示 ・発表方法の確認</p> <p>3. レベルに合わせた練習</p> <p>4. 発表会 ・VTRの確認 ・技の出来映えについて助言し合う。</p> 
	<p>かかわりあい</p> <p><u>補助・声かけ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 5人で1組のグループを作る。①②跳び箱の横にいる児童③跳び箱の横にいて「『く』の字、跳ねる。」と声をかける児童④腰がどの位置にきた時に腰を反ったか見ておく児童⑤技を行う児童 ①②の人は、尻が頭を越えていないのに跳ねた場合、跳び箱の上に落下することがあるので、必ず手を添えて補助の体制をとっておく。 ③の人は「く」の字を意識させることと、跳び箱の端から尻が出たのを見て、「跳ねる。」と声をかけてあげる。 ⑤の人は自分の挑戦が終わった後、①②③④の人と「く」の字の状態であて、尻が頭を越えたら足を振り出すことができているかどうかを確認して次の挑戦に生かそうとする。 							
	4. 学習のまとめ	4. 学習のまとめ	4. 学習のまとめ	4. 学習のまとめ	4. 学習のまとめ	4. 学習のまとめ	4. 学習のまとめ	5. 学習のまとめ
	5. 振り返り	5. 振り返り	5. 振り返り	5. 振り返り	5. 振り返り	5. 振り返り	5. 振り返り	6. 振り返り
指導上の留意点	<p>つまずき 頭が回ってしまい、台上前転になってしまう。 ➢ 目は手の間を見続ける。 支点がぐらつく ➢ 髪の毛の生え際付近で支える</p> 		<p>つまずき 助走をつけたことで、恐怖を感じ、たじろぐ。 ➢ 教師の声かけや補助によって2時までと同じ感覚で取り組める安心感を実感させてやる。また、友達同士の「大丈夫」という声かけを大切にする。</p>		<p>つまずき はねが小さかったり、垂直方向にはねたりして、跳び箱の縁に腰が当たってしまう。 ➢ 着手の位置を奥側にしたり、補助で腰が打たないように支えたりするなど留意する。 ・技ができた人はより美しい頭はね跳びができるようにする。 ・できた児童には、ミニ先生をさせる。</p>			
知					① 観察・カード		② 観察・ICT	② 観察・ICT
思			② 観察・カード		① 観察・カード		① 観察・カード	
態	⑤ 観察	③ 観察		③ 観察		② 観察	① 観察	

単元の評価規準

【頭はね跳び（跳び箱運動）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ② 伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、両手で支えながら頭頂部をつき、尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながら回転することができる。	① 上手くできたところやできなかったところを、学習カードや掲示物などの図に目印や色をつけるなどして、自己の能力に適した課題と解決の仕方を見出している。 ② 友だちのよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友だちに伝えたり書いたりしている。	① 跳び箱運動の頭はね跳びに積極的に取り組もうとしている。 ② 約束を守り助け合って運動をしようとしている。 ③ 準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤ 場や器械・器具の安全に気を配っている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

(1) 知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 頭はね跳びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	・ 頭はね跳びの留意点を友だちや教師に詳しく伝えたり、カードに書いたりすることができる。
② 伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、両手で支えながら頭頂部をつき、尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながら回転することができる。	・ 滑らかな頭はね跳びを安定して行うことができる。

(2) 思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを、学習カードや掲示物などの図に目印や色をつけるなどして、自己の能力に適した課題と解決の仕方を見出している。	・ 課題を解決するために、自己の課題に適した練習の場を選んでいる。
② 友だちのよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友だちに伝えたり書いたりしている。	・ 友達の良い動きの特徴を、擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に友達に伝えたり、カードに書いたりしている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 跳び箱運動の頭跳ね跳びに積極的に取り組もうとしている。	・ 頭はね跳びから前方屈腕倒立回転跳びへの行い方を試している。
② 約束を守り助け合って運動をしようとしている。	・ 励ましたり、応援したりするだけでなく、友だちの課題や解決策を提案しようとしている。
③ 準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。	・ 準備や片付けを率先して行おうとしている。
④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。	・ 仲間の考えや取組を認め、実践しようとしている。
⑤ 場や器械・器具の安全に気を配っている。	・ 仲間の試技の最中も安全に気を配っている。

※ 学習指導要領解説の技の例示とは異なった学年で授業を計画しています。その理由は以下の2点です。

- ① 器械運動の技を系統的・段階的に習得するため。
- ② 器械運動の授業を学年間で偏りなく行うため。